

## 2. 長岡京跡右京第953次 (7ANGNU-3地区)発掘調査報告

### 1. はじめに

今回の発掘調査は平成20年度外環状線(第5工区)地方道路交付金(街路)業務委託に伴い、京都府建設交通部の依頼を受けて実施した。調査地は京都府長岡京市西の京地内であり、北側は京都市と隣接している。長岡京跡では西二坊大路および大路東側溝の推定地にあたる。また、上里遺跡<sup>(注1)</sup>の東隣接地に位置する。調査面積は720㎡である(1区570㎡、2区100㎡、3区50㎡)。

周辺域の調査では、長岡京市立長岡第十小学校建設に伴う右京第22・25次の調査において、長岡京期の遺構としては、長岡京跡で最大級の掘立柱建物跡が見つかった。近年では伏見向日町線道路新築工事に伴う調査で、長岡京期の遺構としては一条大路南側溝・西三坊坊間東小路東西両側溝・右京二条三坊八町域の掘立柱建物跡、下層の上里遺跡の成果としては縄文時代晩期の竪穴式住居跡や土器棺墓などが見つかっている。

現地の発掘調査にあたっては京都府教育委員会、長岡京市教育委員会、(財)長岡京市埋蔵文化財センター、(財)京都市埋蔵文化財研究所および地元自治会の方々にお世話になった。記して感謝の意を表する<sup>(注2)</sup>。発掘調査は、調査第2課調査第1係長小池寛、同主査調査員柴暁彦が担当した。なお、調査に係る経費は、全額、京都府建設交通部が負担した。

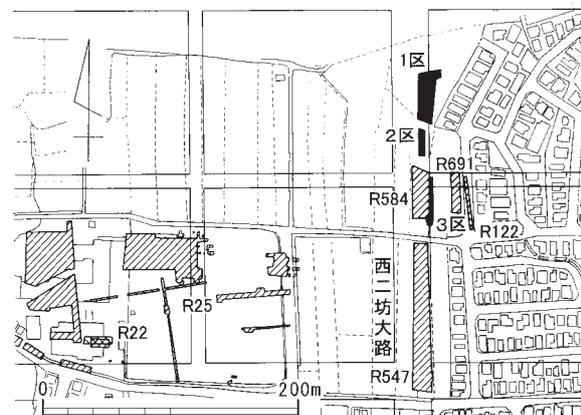
### 2. 調査の概要(第2～4図)

調査では右京第584次調査の東側隣接地(3区)とその北側の一段下がった水田部分の2か所(1・2区)に調査区を設けた。表土および耕作土は重機により除去した。以下に各地区の概要を述べる。



第1図 調査地位置図

(国土地理院 1/25,000 京都西南部)



第2図 調査トレンチ配置図

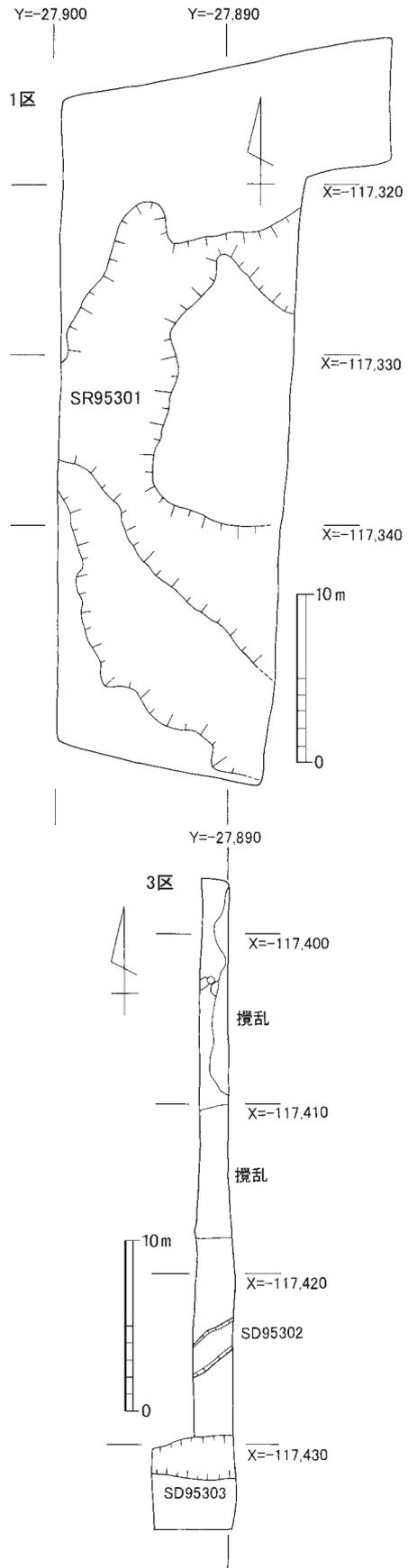
1区 耕作土を除去すると氾濫原中で自然流路跡SR95301を確認した。この流路は北東から南東へ蛇行して流れていた。堆積土は黄灰色および暗灰色砂礫層である。この層には縄文時代晩期から平安時代、中世、近世の遺物を包含していた。この堆積層を除去すると、地下水中のマンガン分が沈着した橙茶色の砂礫層(5層)が堆積していた。この層を重機により約2m掘削すると、人頭大の礫層が続き、遺構は検出できなかった。

2区 幅5m×19mの南北トレンチである。第1層下の灰色粘質土層は4層(2-a~d)に分層できた。出土遺物により中世から近世の堆積土と判断した。遺構は検出していない。この灰色粘質土層を除去すると橙茶色の礫層となる。部分的に青灰色の粘砂質土が堆積していた。この層には磨滅した須恵器の破片が含まれていた。

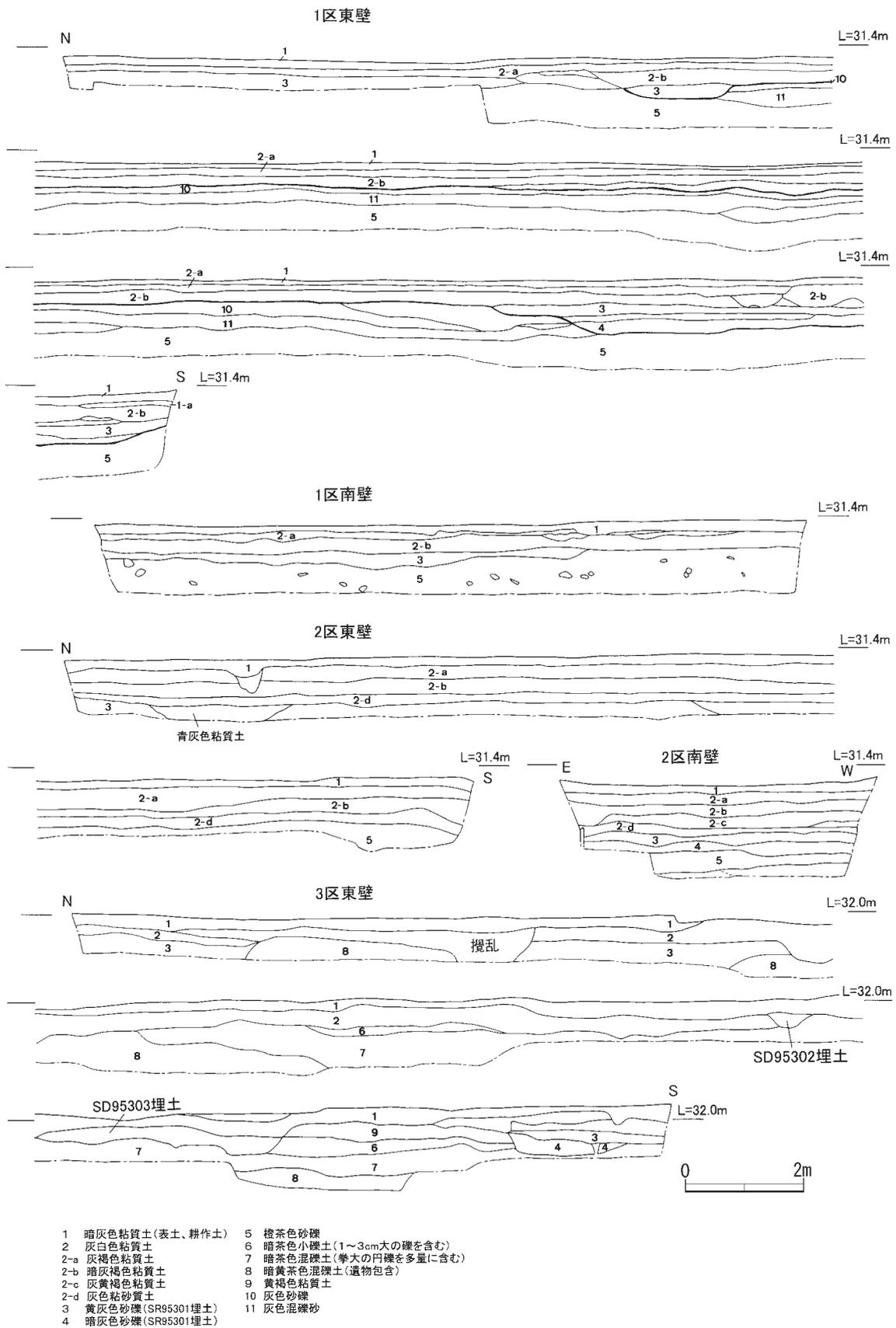
3区 第584次調査地の東側に幅1.3m、長さ38mのトレンチを設定した。表土層を除去すると、北側では灰白色粘質土、南では黄褐色粘質土の遺構検出面となる。北側は攪乱のみで遺構は確認できなかった。南側では溝2条を検出した。SD95302は、幅1.5mを測る断面が皿状の溝である。SD95303は、幅2.4m、深さ0.3mを測る。遺物は古墳時代後期の須恵器杯身の細片がある。また断ち割りによって、この下層で自然流路跡を確認した。堆積土の砂礫中には土師質の土器片が含まれていた。

### 3. 出土遺物(第6図、図版第4)

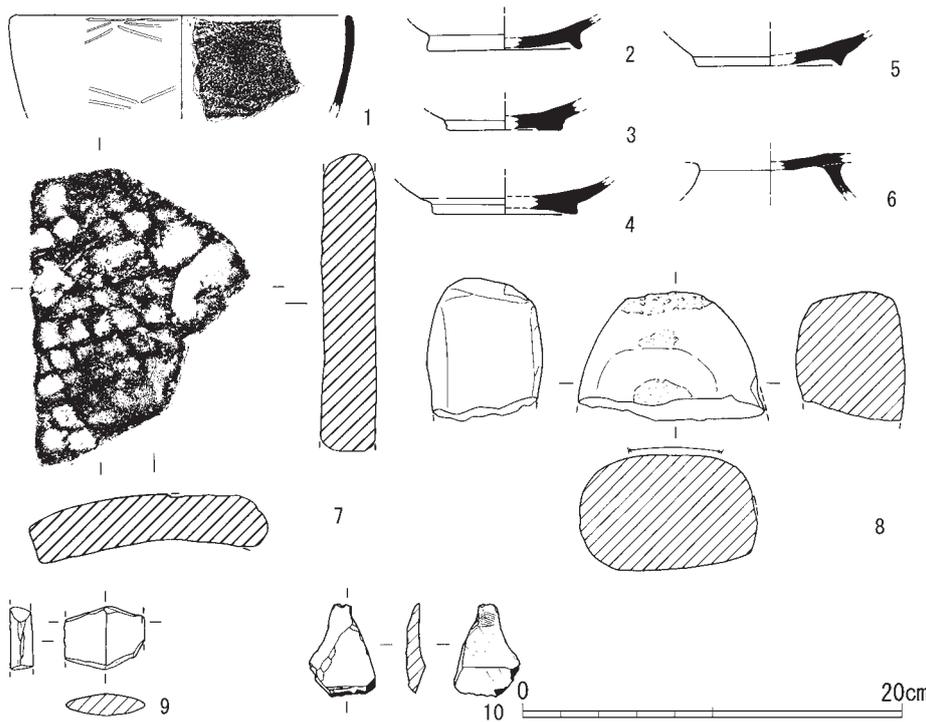
1区から出土した遺物を中心に図示した。1は縄文時代晩期の浅鉢の口縁部片である。口縁端部外面に1条の沈線をめぐらせ、その下に2条一組の山形沈線を上下に相対させて施文している。胎土の色調は黄褐色で角閃石を含んでいる。滋賀里Ⅱ式である。2~6は底部片である。3・4は須恵器の削り出し高台である。5は灰釉陶器である。7は斜格子叩きの平瓦片である。焼成は甘く軟質であり、色調は橙褐色をなす。端面は残存するが、磨滅のため凹面の布目痕跡は確認できない。白鳳期の瓦と考えられる。8は調査中、3区西側の畑で表採した縄文



第3図 調査地平面図



第4図 1～3区土層断面図



第5図 出土遺物実測図(10の黒塗りは新しい剥離を示す)

時代の敲石である。敲打痕と擦痕が確認できる。9は弥生時代の磨製石剣の刃部片である。鎬は不明瞭ながら確認できるが、欠損部と刃部は河川を流されたことによる磨耗が著しい。10はサヌカイト製のスクレイパーである。

#### 4. まとめ

今回の発掘調査では明確な遺構は確認できなかった。1・2区では氾濫原の自然流路内に流れ込んだ砂層および砂礫堆積から、磨滅した遺物が数十点出土した。隣接する右京第584次および第691次調査においても顕著な遺構・遺物は見られず、調査地近辺は土地利用が希薄であったと考えられる。ただ、今回出土した格子叩きの平瓦は、小畑川の支流を含む調査地上流域に白鳳期の寺院等の存在を示唆するものである。(柴 暁彦)

注1 今回の調査地は長岡京跡以外には今里、井ノ内、上里遺跡のいずれの範囲にも含まれない。

注2 調査参加者(敬称略)中島恵美子・阿保悠希

#### 参考文献

山本輝雄 「長岡京跡右京第22・25次調査報告書」-長岡京跡右京二条三坊二・七町、上里遺跡-(『長岡京市埋蔵文化財調査報告書』第11集(財)長岡京市埋蔵文化財センター)1997

山本輝雄 「右京第122次調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』昭和57年度(財)長岡京市埋蔵文化財センター)1983

岩崎 誠 「右京第691次(7 ANGND - 2地区)調査概報」(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成12年度(財)長岡京市埋蔵文化財センター)2002

八木厚之 「長岡京跡右京第584次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第80冊(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター)

上村和直ほか 「長岡京右京二条八・九町跡、上里遺跡」(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』2006-34(財)京都市埋蔵文化財研究所)2007

高橋 潔ほか 「長岡京右京二条三坊一・八町跡、上里遺跡」(『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』2007-12(財)京都市埋蔵文化財研究所)2008

# 圖 版



(3) 調査前状況(南から)



(4) 1区自然流路跡S R 95301全景(南から)



(1) 調査前状況(北から)



(2) 調査前状況(南から)



(3) 2区の状況(北から)



(4) 2区近景(南から)



(1) 1区南壁土層断面(北東から)



(2) 1区南壁土層断面(部分)(北から)



(3) 3区全景(南から)



(4) 3区溝 S D 95302断面(西から)



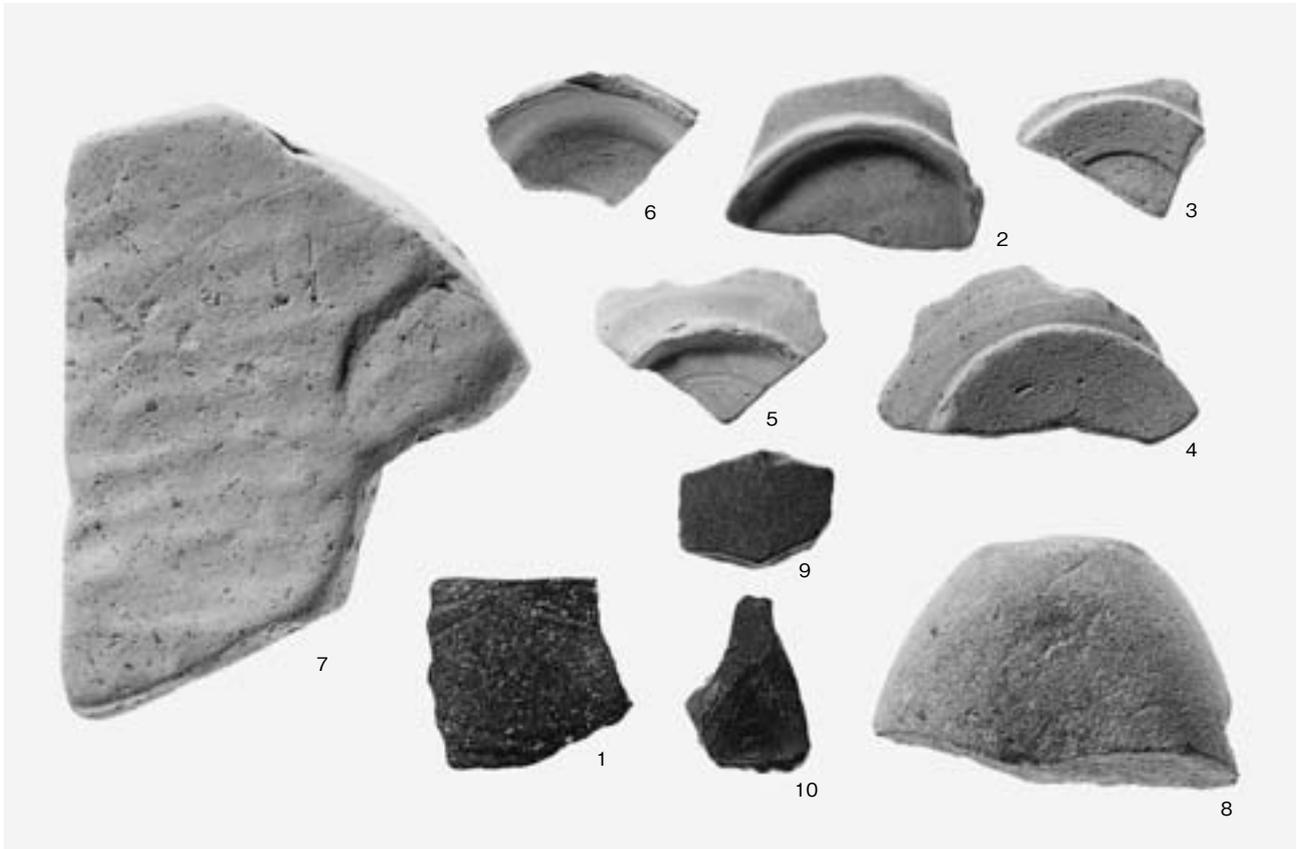
(1) 2区土層断面(北西から)



(2) 2区土層断面(部分)(西から)



(1) 3区溝 S D95303断面(西から)



(2) 出土遺物(番号は遺物実測図に対応)

## 京都府遺跡調査報告集 第133冊

平成21年 3月31日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究  
センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189  
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社

〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル  
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141